



貫道を利用して、丹波篠山を經由して、車で約 2:30 かかる。こちらの方面の例会は少なく、京都縦貫道や新名神ができたおかげで行き易くなったことはありがたい。春の剣尾山の時も高速道路は貸切だった。

「千ヶ峰」の名前の由来はわからないが、この周辺では一番高く、山容の姿も美しいので付けられた名前だろうが、山から降りて車で帰路を走っていると、盆地の周辺は小さな山々にぐるりと囲まれていて、これらの沢山の小山を従えて格好よく堂々と構えているので周辺の山々の代表としてこの名がつけられたに違いない。

今日の例会は苦・楽・苦・楽の登山だった。予測された事とはいえ、初めの約 2 時間は登山口から頂上までずっと急登が続き、久しぶりの脚はやや悲鳴をあげる。これが 3 時間も続いていたら、後遺症やツリが出るのではと思う。頂上近くになって見頃のスキが迎えてくれた。昼食休憩は天気も良かったので 50 分とたっぷりあり、360 度の展望で疲れもおさまるが、やや寒いので風よけに一枚を重ねた。予定のピストンは止め別ルートで下山することとなる。足が冷えたせいか、1 年ぶりに小魚のあたりに見舞われた。

約 40 分ほど南西への尾根歩きをする。展望は少ないが、あまり利用されていないコースゆえ、落葉はそのまの姿を保ち、フカフカのハイキング道をルンルンと行く。

次の苦は、岩座神への下りだった。訪ねる登山者が極めて少ないルートらしく、登山道は杉や落葉で埋まっていて、五感を働かせながら、CL と共に踏み跡を必死に探しながら急勾配を下る。時々、迷路に迷い込みロスもある。2hr の緊張の連続は苦行でジョークも出ない。幸いに木々に付けられたテープや赤ペンキには大いに助けられ、みんな無事に下山出来た。

最後の楽しみは行く道々にあった。特筆はなんといっても 丹波の黒豆の枝豆だった。CL の事前調査のお蔭で、往きの途中の朝市でゲットできた。一房 1000 円でやや高く感じる。予想通り、帰路の車窓から見える朝市の荷台には枝豆の姿は無かった。以前 いただいたことがあったのでその旨さは経験済みだった。CL は枝突きをゲットしていたが、私は一個ずつはずすのが面倒と思い枝付でない袋ものを選んでしまった。枝つきのほうが新鮮さを保てるのに大失敗だ。気が付くのが遅かった。それでも帰宅後の枝豆・ビールのセットは申し分なかった。

丹波の栗・350 円の卵かけご飯・ラベンダーパークでの町おこし・手作りジェラード等々その地の産物を生かしての町おこしにの姿があちこちにみられた。時間不足やタイミングのズレでこれらの楽しみは体験できなかったが。

レンタカーでの運転を引き受けてくれた CL には感謝です。又、本年 9 月の役員会で決めた「レンタカー運転ルール」で運転者への苦労に少しでも報うことができたのは、ルール改定の提案者として少しホットしたところです。

